

岩手県における堆肥センターの活動について

はじめに

本県は、本州の北東部に位置し、ほぼ南北に伸びる紡錘状をなし、総面積は東西112km、南北189km、15,277km²で、北海道に次ぐ広い面積を誇っている。

土地条件としては、西方を南北に走る奥羽山脈が秋田県に隣接し、これと平行して東部には北上山地があり、この2つの山脈の間に本県を代表する北上川が宮城県石巻市に流れ、太平洋に注いでいる。

気象条件は、一般に気温が低く冬の期間が長い。しかも南北に長く広い面積であることから、南北での気温の差が大きく、さらに奥羽山脈・北上山地の大きな山脈によって地形が複雑なことや、太平洋岸は海流の影響を受けやすいなど地域による気候の違いが大きい。

本県の農業は産出額が2,619億円(H.16年)で、そのうち米が735億円で農業産出額の28.1%を占め、次いで鶏が615億円で同23.5%、野菜が285億円で同10.9%を占めている。

畜産における産出額では、前述のとおり鶏が最も大きく、次いで乳用牛が243億円、豚が206億円、肉用牛が196億円となっている。

本県の畜種別の飼養頭数・頭羽数は表-1のとおりである。

1 堆肥の利用促進に向けた取り組み

県内の主な堆肥センターは、県中部から県北部に集中し、24ヶ所ほどが稼働している(協議会会員となっている堆肥センター)。これらは市町村、JA、営農集団等で設置しており、管理はJA、営農集団、第三セクター等が行っている。

各堆肥センターでは良質堆肥の生産に向け、搬入時の計量測定を始め定められた手順に従い、水分の割合によって生産工程を調整しながら、生産計画に沿って良質堆肥生産に努めるとともに、利用する側の要望を取り入れながら円滑な運営を図ろうとしている。

当堆肥センター協議会は、畜産環境特別対策事業(資源循環型畜産モデル等確立普及対策事業のモデル活用型耕畜連携会議の開催等)を実施し、近県の先進地の方々を講師に迎え、研修会の開催や様々な情報・配付資料を「岩堆協かわら版」として提供に努めながら、堆肥センターの円滑な運営と耕畜連携の推進を図っている。

また、県内の行政出先機関などにおいても、それぞれの地域条件を踏まえながら耕畜連携の推進に努めている。



研修会

運営形態

原料別による堆肥センター数

JA	8ヶ所
営農集団	7ヶ所
第3セクター	4ヶ所
民間会社	2ヶ所
その他	3ヶ所

※協議会の会員のみ

乳牛のみ	3ヶ所
乳牛・肉牛	3ヶ所
乳・肉・豚	5ヶ所
乳・豚・鶏	1ヶ所
豚のみ	4ヶ所
鶏のみ	6ヶ所
豚・鶏	1ヶ所

表-1 岩手県の飼養戸数・頭羽数(平成17年2月1日現在) 単位:頭、千羽

区分	岩手県					
	飼養戸数	頭羽数	1戸当たり 頭羽数	対前年比		全国から見た 岩手県の位置 付(頭羽数)
				戸数	頭羽数	
乳用牛	1,750	56,500	32.3	96.1	97.1	3位
肉用牛	9,400	104,300	11.1	96.5	96	5位
豚	208	395,700	1,902.4			
採卵鶏	46	3,352	72.9			
ブロイラー	262	13,398	51.1	93.5	84.6	3位

※豚及び採卵鶏については、平成16年2月1日現在の数値

おわりに

本県においても、良質堆肥を耕種農家等に供給できる体制は徐々に整備されており、その存在も認識されつつある。

しかしながら、いくつかの課題も見受けられ、堆肥を生産する側と利用する耕種側との解決に向けた十分な話し合いを継続的に行う必要がある。

また、近年農作物、特に耕種作物の販売において、「有機〇〇〇」と表示されているものが多く目に付くものの、その程度・割合が気になるものも多く、耕種農家における有機利用生産を支援しながら、堆肥の利用促進に向けた取り組みに努めていきたい。